

## 「今後の県立高校に関する地域検討会議（第4回）」記録要旨【二戸ブロック】

平成28年2月5日（金）

県二戸地区合同庁舎 1階 大会議室

### 【稲葉 一戸町長】

- ・ 従来にとらわれない、地域に密接した学校の魅力づくりが必要である。地方創生のために高校を残すという考えもあるが、高校再編に対応して市町村が取り組むということもある。
- ・ 一戸高校について、系列の見直しと1学級減の案が示されている。生活・文化系列については、食文化の観点から見直していくことも必要ではないか。子ども達は料理等に興味を持っており、町内のコンクールにも多くの応募があった。高校生の取り組みも巻き込み、学校の魅力づくりに寄与できるようにしたい。
- ・ 介護・福祉系列については、地域のニーズもあることから、確実に資格が取れるような取り組みもしっかりやっていきたい。
- ・ 情報ビジネス系列については、従来のものを踏襲するだけでなく社会の動向も見極めながら、新たな分野に参入できるような対応が必要である。
- ・ 再編計画案については、教育の内容等についてさらに検討が必要ではないかと考える。これからも地域との意見交換を継続的にお願いしたい。

### 【山本 軽米町長】

- ・ 軽米高校について、前期計画では現状維持ということに感謝申し上げたい。
- ・ 軽米高校は20数年間、国公立大学への合格者が二桁だった。この学校規模で成果をあげてきた背景には、生徒・教員の頑張りがあった。しかし、2学級規模になりそれが途切れてしまった。原因は様々あると思うが、学級減により教員配置が減ったことが大きく影響したのではないかと考えている。今後、教員の配置を充実させていただくことを要望したい。教員の兼務発令の方法もあると思うので、検討していただきたい。軽米町は小中学校の統合を進めながら、教員資格を持った方を学習支援のために配置している。県教委としても、教員の加配等について配慮いただきたい。
- ・ 岩手県は四国4県に匹敵する面積がある。内陸の沿線地域と沿岸地域や中山間地域の教育格差を是正するために、小中学校へのICTの導入を進めている。高校においても、例えば県立大学等との連携も図り、ICTの活用による授業を展開する等、様々な観点で教育格差が広がらないような取り組みをお願いしたい。

### 【五枚橋 九戸村長】

- ・ これまでの地域検討会議では、地域における学校の役割と、地域に高校が必要であることを意見として申し上げてきた。高校の存在そのものが、地域創生につながっているということから、今回の再編計画案で小規模校に配慮していただいたことに感謝している。また、小規模校の中でも特例校の考え方も示したこと、普通科以外に校舎制を導入しそれぞれの地域に学校を残すとしたことについても評価したい。
- ・ 伊保内高校について、平成29年度に学級減とする計画案であるが、中学校卒業生の動向によっては見直しもあるという説明であった。
- ・ 1町村1校しかない中で、生徒数だけで考え仮に閉校になった場合に、高校に進学できない生徒がいることも考えられる。これは、教育の機会均等にも関わることであり、当面は高校が存続するということで、安心して魅力ある学校づくりに取り組んでいきたい。（次頁に続く）

- 再編計画案では、1学級校についての統合の基準が示されたが、各地域における高校の役割を考慮し、1町村1校はできるだけ残してほしい。高校があるか無いかということは、地域の存廃にかかわってくる。再編計画案は、高校の将来を保障したものではなく、地域に取り組む時間が与えられたものであると思い、高校の存続に向けて一緒に取り組んでいきたい。

**【菅原 二戸市商工会 事務局長】**

- 再編計画案について、地域の実情に配慮していただいたことに敬意を表したい。今後は一層、産学官が協力していく必要がある。
- 二戸ブロックの平成27年度入試では396人が合格している。再編計画による平成32年度の募集定員は440人で、このままでは多くの高校で定員割れが想定される。各高校を存続させるための努力は、他地区より頑張らなければならないと思っている。
- 再編計画の4つの視点に、生徒や保護者の期待に応える魅力ある学校づくりの推進とある。学級数が減る中で、個々の学校の魅力づくりを推進するための取り組みを考えていく必要がある。

**【上山 一戸町商工業関係者代表】**

- 地域における様々な意見に配慮した、再編計画案の内容だと思っている。
- 将来に向け、魅力ある教員を様々な学校に配置することが大事ではないか。そのことによって人材が育成され、結果的に地方創生にも寄与することになるのではないか。
- 一戸高校について、学級減により2学級校になるということだが、特色ある教育内容を検討し、隣接する市町村からも進学してもらえらるようにはしていただきたい。そのための協力をしたい。

**【栗橋 一戸町PTA連合会 会長】**

- 再編計画案について、全体的に学校の統合や学級減が目につき、魅力ある高校づくりについては一般論になっているように思う。
- 地元に残すためにはどうすれば良いのかということ、個別に考えていかなければならないと思っている。市町村の事情も踏まえ、個々の学校はどうあるべきか、ということを検討する機会を作っていただきたい。
- 一戸町長から食品関連系列の検討といった意見があった。一戸町は野菜だけでなくブロイラーや畜産業も盛んであり、地元で専門的に学ぶ学科があっても良いと考えている。
- 調理師や食品関連の仕事を考えている子ども達は、盛岡農業高校への進学を考えていると聞く。二戸管内にも、食品等について勉強できる学科があっても良いのではないか。
- 学級数減については、子どもの数が減っているのではないと思う。ただし、高校の魅力づくりについては、検討しきれないと感じる。

**【古里 軽米町立軽米中学校PTA 副会長】**

- 再編計画案では、軽米高校、伊保内高校、福岡工業高校、一戸高校が存続されることになっているので良かった。
- 二戸（カシオペア）地区において、各町村に小さいながらも高校が存続し、大規模校と競争できる環境を作ることは大事ではないか。
- 軽米高校の音楽部は東北大会に出場するレベルにあり、様々な町の行事に参加し、町民に愛されている。地元の高校生が、地元で一生懸命頑張る姿は格別である。小規模校にチャンスを残してくれたことはありがたい。

**【尾友 九戸村PTA連合会 会長】**

- 伊保内高校について、平成29年度から定員を40人にした場合の教員の配置がどうなるか教えていただきたい。  
(次頁に続く)

- ・これから入試を迎える中学校3年生は、平成29年度から定員が減るという説明を受けていない。受検する中学生は、高校の説明や先輩の話聞いて伊保内高校への進学を希望している。この子ども達が高校2年生になる平成29年度に、これまで聞いていない状況が起こることはどうなのか。
- ・1学級校になれば教職員の配置も少なくなり、きめ細やかな指導ができないというのであれば、生徒はどう思うか。平成29年度からの学級減ではなく、今の中学生3年生が高校を卒業する平成31年度であれば、来年度入学する子ども達への説明もつくのではないか。

**【鳩岡 二戸市教育委員会 教育長】**

- ・二戸市にとって、福岡工業の2学級維持はありがたい。
- ・ブロック全体を考え、福岡高校は県北の拠点校であるべきだと思っている。5学級から4学級になる再編計画案だが、4学級になることで教員配置が減ることが憂慮される。
- ・1学級減れば教員は2人ずつ減り、3年間で6人減ることになると思う。学ぶ生徒にとって、その影響は大きい。再編を考える上で大事なことは、学ぶ生徒を最優先に考えるということではないか。
- ・学習指導要領に定める教育内容を学べるのが最優先と考える。どこの高校も同じではあるが、福岡高校を拠点校として考えれば、現在の教員数を確保していただきたい。かつて、長期休業中（夏季、冬期、春期休み等）に軽米高校と伊保内高校の生徒が福岡高校に集まり、学習会を開いた。十分な教員配置があつて出来たことである。今後も、そういうことが出来る拠点校であつてほしいということを強く要望したい。
- ・中学校卒業生数等から考えれば、4学級はやむを得ないと思うが、拠点校としての教職員配置には格別の配慮をいただきたい。
- ・全人的な教育を考えれば、芸術の3科目の専門教員が揃うことは大事である。福岡高校に3科目の教員が揃うのであれば、周辺校への兼務発令も可能である。何よりも、学ぶ生徒の環境を最優先にし、今後の再編計画を考えていただきたい。

**【古舘 一戸町教育委員会 教育長】**

- ・二戸地区において、学校の統合が先送りになっていることに少し安心した。
- ・生徒の減少は避けられない。これで話し合いが終わるのではなく、今後も継続していただきたい。
- ・地域からは、魅力ある学校づくり、1学級校の存続、35人学級の要望も出た。それらをできる限り尊重していただいた再編計画案と思っている。財政負担のこともあるが、県教委には頑張ってもらいたい。
- ・中学校卒業生数の推移等から、当分は学級減が続くだろうと思っている。生徒の数は決まっているので、学校間の取り合いとなることを懸念している。そのようなことは、あつてはならない。
- ・自然淘汰的に生徒が少なくなる学校を統廃合するのはどうかとも考える。生徒が多く集まる学校は存続し、集まらなければ無くなるというのはまずいのではないか。二戸ブロックの中で、どういう高校があるべきなのかということを、もう一度話し合う必要がある。
- ・福岡高校には、進学校としての期待を持っている。しかし、本当に大学等に進学したい生徒が入学しているかという、そうでもないように聞いている。生徒が減っていく中であつて、学級減をしたとしても教員は加配することを考えないといけない。県全体で、進学校をどういう方向にもっていくのかということも考える必要がある。
- ・子ども達の選択の自由が前提ではあるが、学校の魅力づくりを含め、市町村と県教委がこれからも話し合いを進めていくべきではないか。

(次頁に続く)

**【菅波 軽米町教育委員会 教育長】**

- ・ 2年間にわたり協議の場を作り、計画案という一つの検討案を示していただき感謝している。
- ・ 校舎制について、全国での導入例は示していただいたが、本県で導入する場合の細部の吟味は十分ではなかったのではないかと。岩手独自の校舎制とはどういうものか、今後内容を詰めるべきことではないかと思う。
- ・ 今後の統合計画や学級減を示していただいたが、個々の学校の実状等を踏まえながら進めていただきたい。
- ・ 軽米高校について、平成25年度に1学級減となったこともあり、前期計画では具体の再編について示されていない。しかし、今後の中学校卒業生数等を考えると厳しい状況にある。学校の存続については、地域の活性化とも直結するものであるという認識を持ち、危機感を持って支援策等も含め考えている。中高一貫教育を軸としながら、より一層、地域と一体となった学校づくりを進めていきたい。
- ・ 魅力ある学校づくりについて、教育の質の維持と向上のために、学校規模の大小を問わず積極的な県教委の関与をお願いしたい。小規模においては、履修できない科目があること、選択肢が限られること等の制約を克服できる積極的な施策をお願いしたい。また、教員の相互派遣を具体的に進めていただきたい。ICTを活用した遠隔授業についても、具体化を推進していただきたい。国の事業を活用した計画があるということであった。小規模校でも幅広い科目設置ができるように、試行的に導入し検証する中で、岩手独自の遠隔授業の形態を作っていただきたい。
- ・ 大規模校でも小規模校でも、レベルの高い教育の質を保障するような教育環境を作るために何ができるかという観点で、積極的な施策の展開をお願いしたい。

**【漆原 九戸村教育委員会 教育長】**

- ・ 再編計画案について、統合という言葉はあったが致し方ない。小規模校へのきめ細かい配慮があり策定には苦勞されたと感じている。
- ・ 震災時に地域を支えた高校生の活動、地域における小規模校の存在価値、地域の人材育成を考えた時に、町村1校の存続の想いを強くした。
- ・ 統合等の条件として、入学者が2年連続20人以下の場合という基準が示された。他地域でも話題になったが、危機感を感じる条件である。基準に該当したら直ちに統合ということは無いと思うが、それぞれの高校は特色ある活動を積み重ね歴史を作り、さらに現在、魅力ある学校づくりを進めていること等も見つつ、生徒にとっての高校の役割、地域における高校の役割を考慮していただきたい。
- ・ 小規模校の教育の質の確保に向けた各町村の財政的な支援等がある。再編計画案では、前期の再編プログラムが示された。生徒や保護者の進路選択を考えて、予め示したという説明であったが、小規模校の教育の質の確保のために、県教委として授業や進路指導にどのような取り組みをしているのか教えていただきたい。
- ・ 校舎制について、統合するから導入するのではなく、県の新たな学校づくりの観点からの導入と考えるべきではないかと思っている。校舎制を導入した場合のそれぞれの学校の役割をどのように位置づけ、再編計画の期間である10年にどのように反映していくつもりなのか聞きたい。

**【小林 二戸地区中学校校長会 会長】**

- ・ 再編計画案について、地域検討会議の意見が反映された内容であると思っている。生徒数の減少を考えると、一定の変革が求められていると思う。その中でも、地域事情が考慮されたことが感じら  
(次頁に続く)

れる計画案である。一層地域の高校の魅力を伝え、地元の高校を大切にすゝる気持ちで中学校での教育にあたつていきたい。

- ・二戸地域の家庭の経済事情等を考えると、多額の交通費が必要になる通学は無理な家庭がある。支援を十分に検討していただきたい。
- ・通学支援として、市町村や保護者が構成する団体に対し補助等をするとしている。どの地域に生まれ育つても、高校教育は受けることができる配慮は忘れずにお願ひしたい。
- ・教育の質の向上を考え、特にも小規模校の多様な進路希望に対応できる教員の加配を検討していただきたい。

#### 【県教委】

- ・一戸高校について、系列を見直し2学級とする案を示しているもの。総合学科の在り方については、計画策定後に別途機会を設けて検討していきたい。
- ・総合学科では、様々な系列がありそれが学校の魅力になっている。2学級規模で総合学科の機能を維持していくのかということについても、十分検討して進めていかなければならないと考えている。
- ・教育の質の保証について、学校が小規模化する中で教員の相互派遣やICTを活用した遠隔授業をモデル的に導入することを考えている。しかし、単位認定のためには双方向・同時性の条件をクリアしなければならない。当面、課外授業等での取り組みも考えながら、授業等への拡大につなげることができればと考えている。また、キャリア教育における地域や産業界との連携、部活動指導者の地域との連携、近隣の高校との連携等も考えられる。
- ・学級数調整について、震災以降は個別の学校で40人以上の欠員があった場合に、県の管理運営規則に該当することで学級減としていたもの。その結果、1学級校が現在4校存在している。再編計画案にも示しているように、学校の最低規模については2学級と考えている。しかし、前期計画期間中に1学級に近い欠員が生じる可能性がある学校については、ブロック内の必要学級数や既に1学級校が存在すること、さらに地域における学校の存続を求める意見も多いことも考慮し、1学級校として存続させるもの。高校は社会に出る前段階にあり、様々な活動通じ社会性や協調性をはぐくみ、集団経験を重ね人間としての成長を図っていくということが必要であることから、一定程度の人数が必要と考えている。
- ・1学級校においても、進路別あるいは習熟度別に分けて授業を行っている。その場合、学ぶ集団が小さくなり10人より少なくなると、学ぶ環境としていかなるものかと考え、統合の基準として20人以上が必要としているところ。
- ・魅力ある学校づくりについて、再編計画案には地域との連携について十分に記載できなかったが、個々の学校にある教育振興会等の既存組織を活用し、ワーキンググループを立ちあげて議論を行いながら、地域・学校・生徒にとってプラスになる取り組みを検討していきたいと考えている。
- ・伊保内高校の教員配置について、平成27年度は教諭が12人、講師が3人で全体では24人の体制となっている。平成29年度から学級減となれば、平成31年度には全学年で1学級となり、1学年2人程度の教員減が想定される。特色ある教育活動を進めるための加配措置等も考えながら、対応していきたい。
- ・ブロック全体の学校・学科の配置について、地域検討会議では地域代表ということもあり、それぞれの地域の学校を考えなければならない立場にもあることから、広域的なところまで踏みこめなかったところはある。今後、会議の在り方を含め検討して参りたい。
- ・教員の相互派遣については、今年度、芸術等を中心に21人が兼務し40校で授業を行っている。I  
(次頁に続く)

CTを活用した遠隔授業にも取り組む予定であり、他教科への拡大についても今後検討して参りたい。

- ・再編計画案では統合等の基準についてお示しした。ただし、これについては機械的に行うというのではなく、入学者数が基準に該当することが予想される場合には、地域の存続に向けた取り組みも考慮しつつ、地域との話し合いの機会も持ちたいと考えているものである。
- ・校舎制については、県教委として初めて提案したものの。専門学科が小さくなる中で、専門学科で学ぶことができる選択肢の確保と、地域に学校が存続することを考えて提案させていただいたもの。普通科同士というよりも、専門学科とその他の学科の組み合わせとして考えている。
- ・通学支援については、これまで、市町村や保護者団体に対して補助等を行っていたもの。今後、統合等によって通学経費が一定額以上かかる場合の激変緩和策として、個別の支給も含め平成 28 年度に検討するものである。経済的な事情等への対応としては、就学支援金や奨学金の活用等の周知を図って参りたい。

#### 【稲葉 一戸町長】

- ・学校規模が小さくなっても、生徒のために十分な教員の配置は必要である。そのためには財政的な負担を求められるが、それについては一定のルールに従って市町村も協力してもかまわないと個人的には思っている。
- ・盛岡ブロックに接する町内の中学校卒業生の多くが、盛岡地区の高校に進学しショックを受けた。距離的な要因、I G Rの利便性等があると思うが、このままでは学区が無いようなもの。盛岡地区も人口増のピークは過ぎている。学区についても検討が必要ではないか。

#### 【県教委】

- ・正規の授業を行う教員の配置については、本来、県が負担するべきものである。市町村の協力については感謝しつつ、検討させていただきたい。
- ・学区については現在 8 学区を設定している。これは普通科を受検する場合に、学区外からの入学を 10%に制限するものであって、専門学科と総合学科については全県 1 区となっている。現在、盛岡ブロックにおいても、これを超える志願者はほとんど無い状況にある。ただし、平成 27 年度入試からは、募集定員を割っている学校については、10%を超える入学を認めている。
- ・学区について、地域からは全県 1 学区の意見や学区外の制限をさらに厳しくといった様々な意見がある。今回、再編計画と同時に検討はできなかったが、平成 28 年度入試から推薦入試の要件が変わること等もあり、状況を見ながら検討して参りたい。ただし、学区を変更する場合には、中学生の進路に大きく影響すること等から、十分な時間をかけ検討するとともに、周知の時間も必要と考えている。

#### 【山本 軽米町長】

- ・軽米高校については、平成 32 年度までは現状維持だが、町内で生まれる子どもの数が 50 人を割ってきていることから、ほぼ全員が入学したとしても 2 学級の維持は厳しいだろうと思っている。
- ・近々、軽米高校を守る会が設置されると聞いている。軽米町は連携型中高一貫を導入し教育の充実を図ってきた。当時の増田知事は「大いなる実験」と言ったが、中高一貫教育について、しっかり検証し充実させて、成果を着実に出していきたい。これについての県教委の考え方を聞きたい。
- ・平成 21 年度から一関第一高校の併設型中高一貫教育が始まった。初めての卒業生について、その進路状況をお聴きしたい。

(次頁に続く)

#### 【県教委】

- ・ 連携型中高一貫教育については、生徒数が減少する中で、今後も町の意向を確認しながら、連携の充実を図っていかねばならないと考えている。
- ・ 併設型の一関第一高校については、平成 27 年 3 月に初めての卒業生を出したところ。6 年間を通じた教育課程とキャリア教育の充実を図り、概ね進路目標を達成している。今後、成果と課題を検証しつつ、具体的方向性を検討して参りたい。ただし、附属中学校の入試倍率は 2 倍を超えている状況にあるものの、平成 27 年度の高校の一般入試では定員を割っている状況にもあり、その状況等も勘案し今後の在り方を検討して参りたい。

#### 【県教委】

- ・ これまで 4 回にわたる地域検討会議で、皆様から貴重な意見をいただいた。いただいた意見については再編計画の策定の参考とさせていただきたい。
- ・ 校舎制については、専門性の確保とともに学校の存続について強い要望があったことから、県教委としても知恵を絞った中で提案させていただいたものである。ただし、最終的に強要するものではなく、何か良い案があれば取り上げたいと考えている。
- ・ 今回の再編計画案で最も特徴的なことは、1 学級校の存続を認めたということである。覚悟があることで、県としても厳しい状況に置かれることは間違いなく、同時に、80 人定員の学校が 40 人になりさらに 30 人になっても同一の教育ができるかという簡単なことではない。
- ・ 教員の相互派遣や ICT の活用により、授業の内容はある程度維持できるかもしれないが、教育活動は生徒がいて初めて行われるものである。特に高校教育においては、社会性を育成することが大事な観点である。生徒が様々な人達と過ごしながら自らを高めていくこと、新たな出会いも必要である。部活動も人数が少ないと競技に制約が出てくる。
- ・ 学校行事についても、地域の力を借りないと教育の質の維持は簡単ではないと思っている。生徒が少ないと生徒会費等にも制約が出てくる。部活動の指導者を市町村にお願いするということもあるが、様々な支援をいただかないと難しい部分はある。
- ・ 生徒が減り人的・物的な制限がある中で、いかにプライオリティーをもって対応していくかということが求められている。地域の御理解をいただきながら、本県の高校教育の振興のための御支援をいただきたい。
- ・ 教員の加配については、地域が協力するようなことがあってもいいのではないかという意見もいただいた。
- ・ これまで、県内 9 ブロックで様々な意見をいただいた。全てに応えるのは簡単ではないが、持ち帰り再編計画の検討に反映させて参りたい。